

2026年1月

カーボンフットプリント

算定・表示 手順書

SAGA COLLECTIVE 協同組合

目次

1. 算定目的の明確化	2
2. 対象製品の選定	3
3. 対象製品のライフサイクルをプロセスに分解	4
4. 各プロセスの GHG を算定	5
5. 全プロセスの GHG 排出量を合計	8

手順書の目的と位置付け

「カーボンフットプリント算定・表示ルール」を踏まえた CFP の算定方法について、実務担当者が主体的に取り組むことができるよう、「カーボンフットプリントガイドライン（別冊）CFP 実践ガイド（経済産業省、環境省）」より要点を抜粋して、具体的な手順を示します。

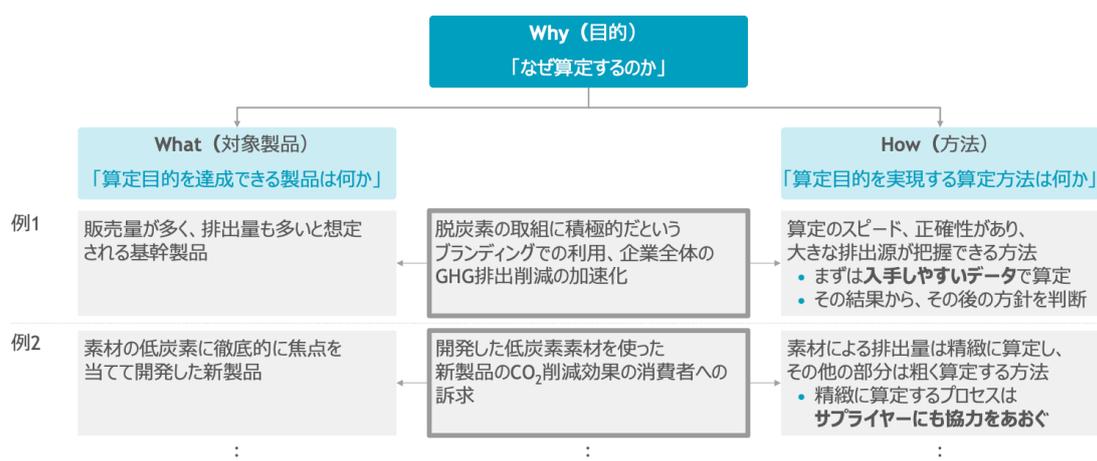
履歴

Ver	日付	内容
1.0	2026年1月30日	発行 環境省 令和7年度「製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業（地域人材育成支援）」において策定。

1. 算定目的の明確化

[手順 1] 算定目的を明らかにします。

ISO などの国際ルールでは CFP 算定の具体的な方法までは定められておらず、どの程度の客観性や正確性を狙った算定をするのか（=どの程度の作業工数をかけるのか）は、CFP の目的に合わせて算定者が決めることになります。



(出典) 経済産業省、環境省「カーボンフットプリントガイドライン (別冊) CFP 実践ガイド」

例えば、「企業全体の GHG 排出削減の加速化」が目的の場合、販売量や排出量が多い基幹製品を対象に、入手しやすいデータで素早くかつ正確に算定します。また、「低炭素素材を使った新製品の訴求」を図る場合、素材による排出量は精緻に算定する一方で、その他の部分は粗く算定する方法となります。

このように、目的に応じて算定対象製品や算定方法を検討していくことになります。

2. 対象製品の選定

[手順 2] 算定目的を踏まえて、算定する製品を選定します。

まずは少ない製品で CFP 算定の具体的なプロセスや判断方法、自社のデータ管理の特性を理解

し、その後に算定対象製品を拡大した方が効率的に進めることができます。

社内で初めて算定を行う場合は、以下を踏まえて算定対象を選定しましょう。

- 算定によるインパクトの大きさ（総排出量が多い製品、自社の看板商品など）
- 想定される算定工数の少なさ（プロセスが簡易な製品、調達データや生産管理データが十分整っている製品など）

3. 対象製品のライフサイクルをプロセスに分解

3.1 ライフサイクルステージの決定

[手順 3.1] 算定対象とするライフサイクルステージを決めます。



(出典) 経済産業省、環境省「カーボンフットプリントガイドライン (別冊) CFP 実践ガイド」

最終製品の場合は製品の原材料調達から廃棄・リサイクルまで (Cradle to Grave)、中間製品の場合は製品の原材料調達から製造 (出荷) まで (Cradle to Gate) が基本です。

3.2 ライフサイクルフロー図の作成

[手順 3.2] ライフサイクルステージの各プロセスを 1 つの図に落とし込んだ「ライフサイクルフロー図」を作成します。



	対象	要素の例
1. 原材料調達	原材料、生産サイトまでの輸送	原材料 生産サイトまでの輸送
2. 生産	工場などの生産サイトでの生産	使用する水 製造時の廃棄物 生産の各段階でのエネルギー使用、排水処理
3. 流通・販売	生産サイトから顧客の手元に届くまで	輸送途中の倉庫で積み替えるダンボール 輸送、輸送途中での倉庫での保管
4. 使用・維持管理	顧客の使用	製品使用時に必要な電力や水 家庭内での冷蔵保管
5. 廃棄・リサイクル	顧客の手元から廃棄・リサイクルサイトへの輸送、廃棄・リサイクル処理	廃棄物輸送に必要な梱包材 廃棄物処理場への輸送、廃棄・リサイクル処理

(出典) 経済産業省、環境省「カーボンフットプリントガイドライン (別冊) CFP 実践ガイド」

4.各プロセスの GHG を算定

[手順 4.1] プロセスを構成する要素を書き出します。

例えば、生産については、使用するエネルギーが明確となるよう、加工機械単位を目安にプロセスを細分化します。各プロセスにおける給水や排水、廃棄物についても漏れなく記載するようにします。

廃棄物を再利用する場合も、その旨を記載します。

[手順 4.2] 記入したプロセスそれぞれで必要となる活動量と排出量を記入します。

- 排出係数：
単位あたりの GHG 排出量。1 次データの入手が難しい場合には 2 次データベースを使用します。その場合、データベースのどの項目を使用するか、明記します。
- 活動量：
重量や距離など。基本的には実測値（1 次データ）を使用します。原材料と生産物など、インプットとアウトプットの整合性に留意してください。

プロセス [4.1]			排出係数 [4.2]					活動量 [4.3]			
No.	大項目	小項目	kg-CO2e	基準単位	データ項目名	コード	出典	活動量 1	単位	活動量 2	単位
1	原料 A		10.0	Kg	原材料 A	xxxxx	IDEA	200	Kg		
2	輸送		1.0	tkm	トラック輸送	xxxxx	IDEA	0.2	t	500	km
...											
9	生産	加工機	0.500	kWh	電力	xxxxx	IDEA	3.0	kW	1	h
		切断機	0.500	kWh	電力	xxxxx	IDEA	2.0	kW	1	h
...											

実務上は[手順 4.1]と[手順 4.2]を行き来しながら算定シートの作成を進めていくこととなります。例えば、「プロセスを書き出す」、「該当する 2 次データベースの排出係数を参照する」、「基準単位から入手すべき活動量を特定する」の順序で進めていきます。

排出係数について、2 次データベース上に最適なものが見つからない場合には、以下のような対処方法があります。

- オプション 1 : 類似項目で代用する
- オプション 2 : 他のデータベースを利用する
- オプション 3 : 1 次データ取得に取り組む

活動量の 1 次データの取得が容易ではないことが確認されたプロセスについては、以下 3 つのオプションから、どのように取り組むのかを決定します。

- オプション 1 : 1 次データ取得に取り組む。
- オプション 2 : シナリオを利用する。
 - 活動量や排出係数の欄に、使用したシナリオが追えるように記載します
 - シナリオに使用したシナリオを記載します
- オプション 3 : データの取得が容易ではなく、CFP に対する影響が小さいと推定される場合は、カットオフする。
 - 活動量の欄にカットオフした旨を記載します

例えば、問屋から原材料を仕入れた場合の活動量（輸送距離）は次のように考えます。

- 問屋の前の原材料製造工場がある地域がわかる場合
 - 原材料製造工場～問屋、問屋～自社工場の輸送距離を用いる（オプション 1）
- 問屋の前の原材料製造工場がわからない場合
 - 近隣の地域からの調達ということのみわかっている場合：カットオフ（オプション 3）
 - 近隣の地域以外、もしくはどこかわからない場合：シナリオ（オプション 2）

5. 全プロセスの GHG 排出量を合計

[手順 5] 算定用のアプリケーションや表計算ソフトにて GHG 排出量を合計します。

「活動量×排出係数 = GHG 排出量」となるように計算式を入力し、プロセス毎の GHG 排出量を

算出できるようにします。プロセス毎の GHG 排出量の総和が CFP となります。

プロセス [4.1]			排出係数 [4.2]					活動量 [4.3]				GHG [5]
No.	大項目	小項目	kg-CO2e	基準単位	データ項目名	コード	出典	活動量 1	単位	活動量 2	単位	kg-CO2e
1	原料 A		10.0	Kg	原材料 A	xxxxx	IDEA	200	Kg			2,000
2	輸送		1.0	tkm	トラック輸送	xxxxx	IDEA	0.2	t	500	km	100
...												
9	生産	加工機	0.500	kWh	電力	Xxxxx	IDEA	3.0	kW	1	h	1.5
		切断機	0.500	kWh	電力	xxxxx	IDEA	2.0	kW	1	h	1.0
...												